

施工手順書⑭-1

テラ(TERA)

↓施工動画はコチラ



3m 片開き戸

ステルス枠 施工手順書一覧

共通

※シリーズ専用以外の共通編の施工手順書は工事内容別で下記の①、②、③に分かれています。
 ※マルコシリーズの2・3枚引違い戸(上吊)、2枚引込み戸(上吊・連動)は共通編をご覧ください。
 ※本書の準耐火仕様とは、ご注文の際に当社の「準耐火仕様」を選択した場合に限ります。

- | | |
|---|--|
| ①木工事

②クロス・塗り壁工事
(ステルス枠・インセット枠共通)
③扉・金物の取
(ステルス枠・インセット枠共通) | ①-1.ステルス枠・標準仕様 / ①-2.ステルス枠・準耐火仕様
①-3.インセット枠仕様

③-1. 開き戸
③-2. 片引き戸(上吊)、ポケット戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)
③-3. 2・3枚引込み戸(上吊・連動)、3枚引違い戸(上吊・連動/非連動)
③-4. 片引き戸(床付レール) |
|---|--|

シリーズ専用

※シリーズ専用の施工手順書(④~⑨)は木工事、クロス・塗り工事、扉・金物の取付が一式含まれます。

- | | |
|---|---|
| ④クローゼット

⑤オートマチックドア
⑥ヴェトロ・ミラノ
⑦カエサル

⑧マルコ
⑨フィット
⑩ファイブクイーンズ・インディゴ
⑪ソリスト・パレス
⑫カーム
⑬フィーナ
⑭テラ | ④-1. 折れ戸 ④-2. 物入片開き戸、両開き戸、連続開き戸
④-3. スライド片開き戸

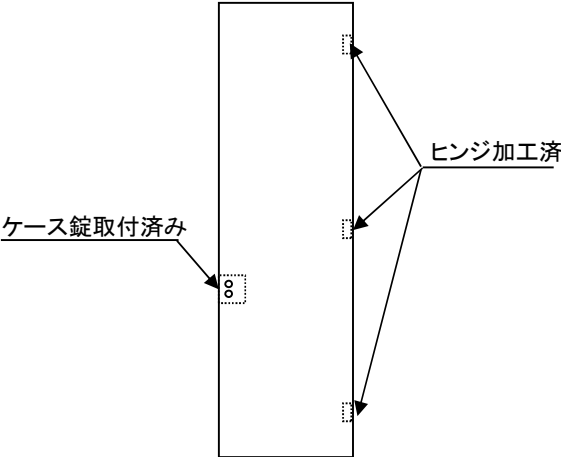
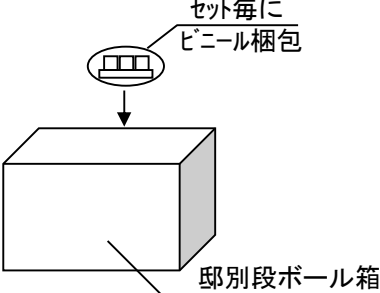
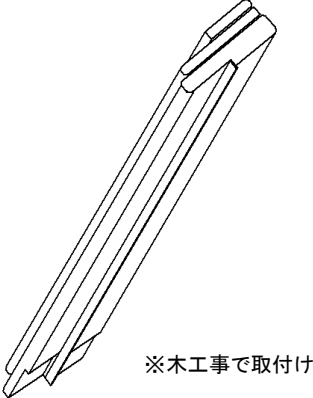
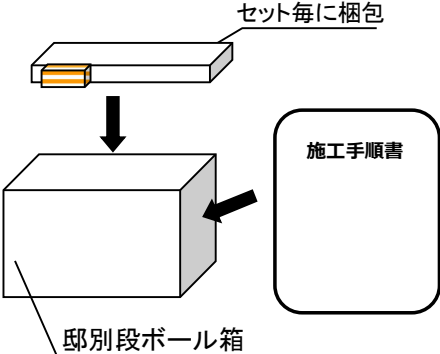
⑤-1. 片引き戸(上吊)、⑤-2. 片開き戸
⑥-1. アウトセット片引き戸(上吊) ⑥-2. 開き戸
⑦-1. スイング戸、両スイング戸、サイドガラスユニット

⑧-1. 3枚引込み戸(上吊・非連動) ⑧-2. 2枚引分け戸、4枚引違い戸(上
⑨-1. スイング戸 ⑨-2. 片引き戸(上吊)、2枚引違い戸(上吊)、2枚引
⑩-1. スイング戸
⑪-1. ローリング戸
⑫-1. ローリング戸
⑬-1. 片引き戸・アウトセット片引き戸・2/3枚引込み戸・2/3枚引違
⑭-1. 片開き戸、⑭-2. 片引き戸(上吊) |
|---|---|

□片開き戸【テラ専用】

施工手順書2026/1初版

□納品形態

扉と同時に納品されるもの	
建具	建具金物箱
	
下地枠と同時に納品されるもの	
下地枠	下地金物箱
	

□片開き戸【テラ専用】

■製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

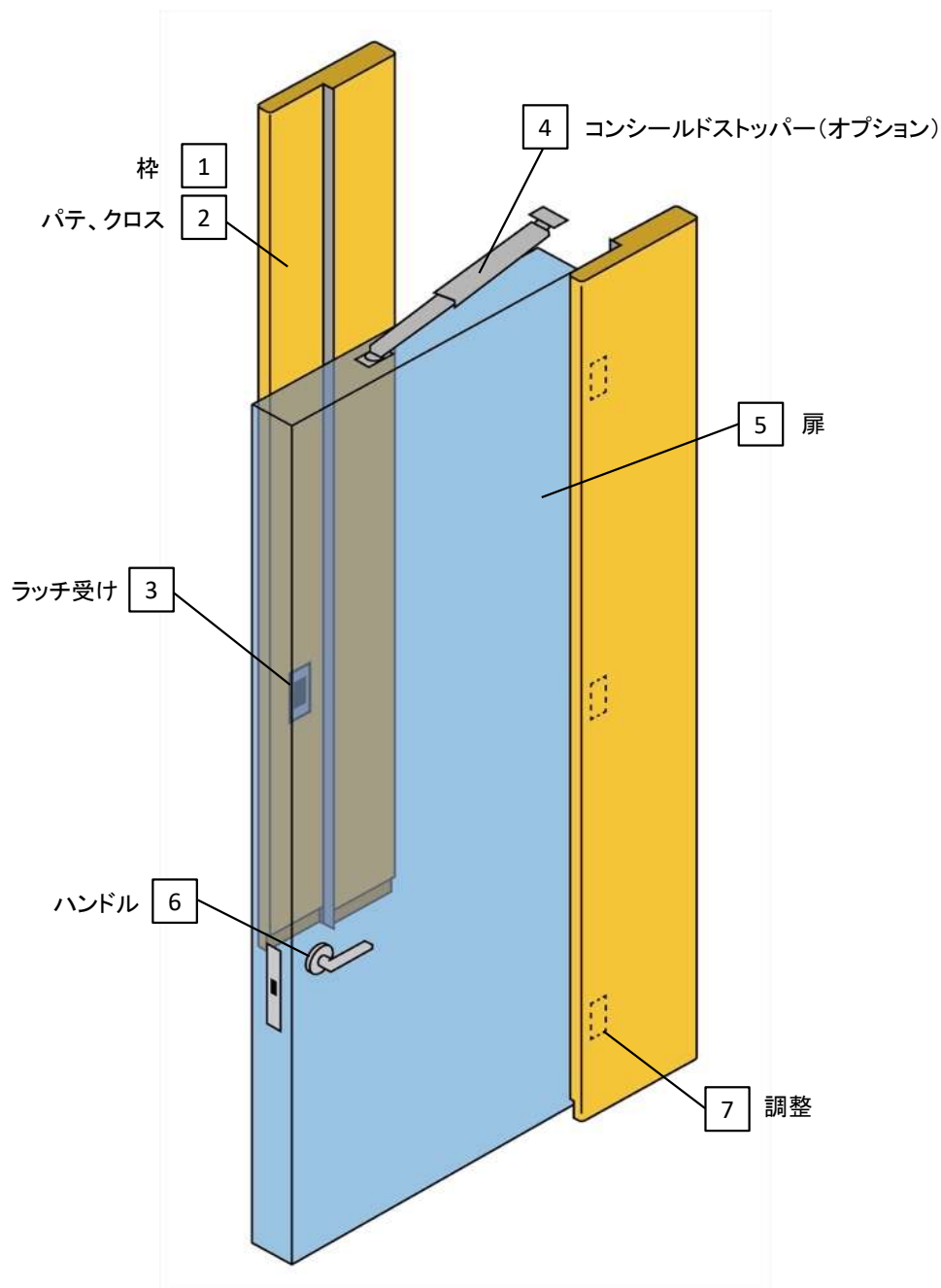
□金物箱の梱包内容

建具金物箱				
ハンドルセット				
	ハンドルセット付属品			
1セット	3x30mm:2本 3x50mm:2本 30mmは使用しません			
				5mm:1本
				
				使用しません
面付隠し丁番		ディスタントプレート		吊り込み治具
				
本体	カバー		2セット	1セット
取付ビス(皿タッピングM4×20)		取付ビス(皿タッピングM4×20) ※インセット枠の場合M4×40		
		2セット		
ボトムストッパー(別売)		吊り込み治具		
				
1セット		1セット		
コンシールドストッパー(オプション)		錠+錠カバー+軸アタッチメント		
				
取付ビス(皿タッピングM4×25・M4×35)		錠セット付属品		
1セット				
		3x43mm:2本 3x50mm:2本 43mmは使用しません		
				
		5mm:1本		
		1セット		
下地金物箱				
ラッチ受け		調整ビスセット		
				
ビス2本		28本		
1セット				
		スペーサー1ヶ付		
		1セット		

□片開き戸【テラ専用】

■ 施工に関する流れ

全体図



□片開き戸【テラ専用】

0 施工前の確認

下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。

1 枠

1-1 ヒンジ用下穴

枠取付用とは別に下穴があります。扉吊り込みまで塞がないで下さい。

1-2 縦枠下地

①縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。

※クロス・塗り壁で仕上げますのでビス頭の飛び出しは厳禁です。

②取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。

※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。

③取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン(現場手配品)を接着剤併用(表裏塗布)にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。

2 パテ、クロス

2-1 パテ

縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

下地パテ、仕上げパテを適正な厚みで施工してください。

2-2クロス

下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。

入隅出隅部は、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながらと貼るとクロスよれの原因となります。

3 ラッチ受け

クロスが乾いてからラッチ受け金物の加工部分にカッターで切り込みを入れ、ラッチ受け金物をに取付の際、クロスは巻込んでください。

4 コンシールドストッパー

扉吊り込み前に扉上端にコンシールドストッパーを取付けます。天井側は吊り込み後に指定の場所を取付けます。

5 扉

吊り込み用治具を入れて吊り込みます。ヒンジ取付用下穴を利用して仮止めします。

6 ハンドル

各部緩みなく取り付けます。

7 調整、仕上げ

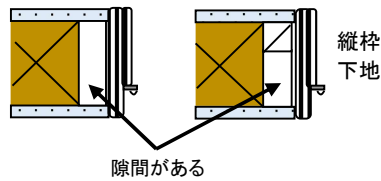
建付け調整後、ヒンジとコンシールドストッパーの天井側を固定したら、カバーを付けて完了です。

0 施工前の確認

□ 開口部の確認

開口部(躯体側木下地)の確認

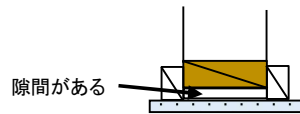
下地枠を取り付ける前に、躯体側に木下地が隙間なく平滑に入っているか確認をしてください。



×

○

下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。



×

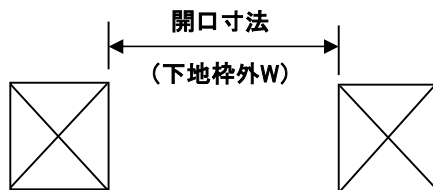
○

ポイント

- ※躯体側の木下地（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。
- ※上枠下地が無い納まりの場合でもクロスヨレ・ヒビを防ぐために木下地は隙間なく平滑に入れてください。

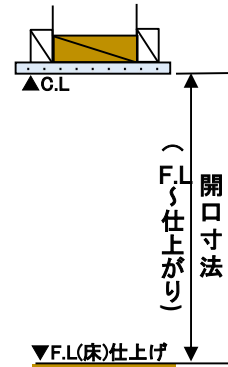
開口部(寸法)の確認

下地枠を取り付ける前に、開口部の巾・高さ寸法を確認してください。



【巾寸法】

開口寸法（＝下地枠外W）



ポイント

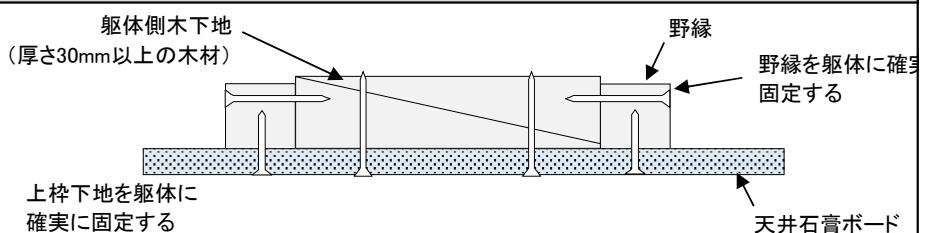
- ※開口寸法は邸別の納まり図でご確認ください。
- ※納まり図の高さ寸法はF.L.(床仕上げ面)からの寸法となっているので注意してください。

1 枠

□ 上枠下地の取付

上枠下地について

上枠下地(神谷支給品)はありませんが、特にコンシールドストッパーを取付ける場合は、躯体側木下地として30mm以上の木材を施工し、石膏ボードを継ぎ目なく貼り伸ばしてください。



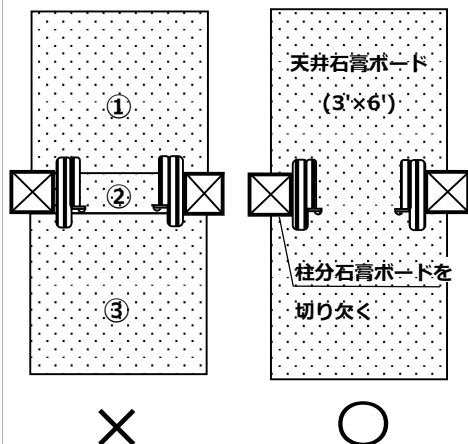
上枠下地が取付かない場合の天井ボードの貼り方参照

□天井ボードの貼り方、上枠下地取付時の注意点

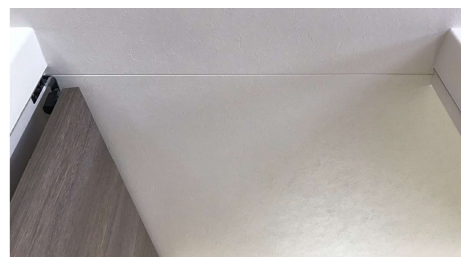
注 上枠下地が取付かない場合の天井ボードの貼り方

クロスよれの原因となりますので開口上部の天井石膏ボードの貼り方には注意が必要です。

※特に開口部直上に梁があり、右図ボード②を梁に直接留め付け、右図ボード①③を際野縁に留め付ける場合、動きが出やすくなります。



天井の石膏ボードは開口部でのジョイントを避ける



天井の石膏ボードにジョイントができる場合は、目地材・見切材を使用するのが有効です

注 縦枠【ヒンジ用下穴保護について】

注意！

吊元枠には枠取付用の下穴とは別に、ヒンジを取付ける為の下穴が6か所あります。

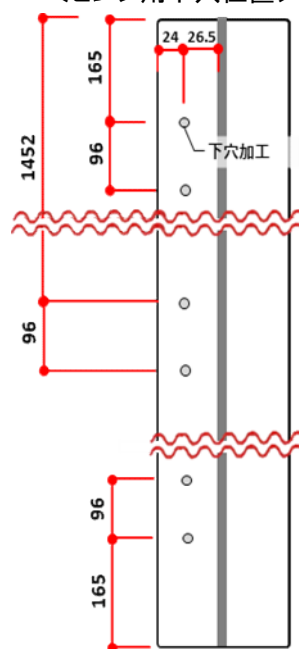
下穴はパテやクロスで埋めないで下さい。

ヒンジを取付ける直前まで竹串などを指し混んで下穴を保護して下さい。

＜ヒンジ用下穴保護例＞



＜ヒンジ用下穴位置＞



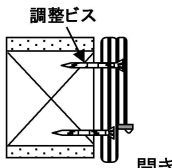
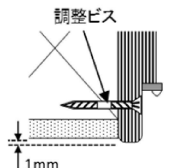
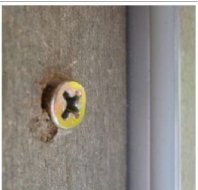
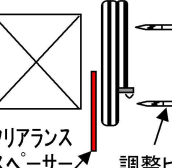

1 枠

□縦枠下地

縦枠下地の取付

縦枠下地を壁厚(柱)の中央にあてレーザー等で立ちを見ながら、同梱の調整ビスで取付けてください。
※クロス・塗り壁で仕上げますのでビス頭の飛び出しは厳禁です。

取付の際に、クリアランススペーサー(調整ビスに同梱)を柱と枠の間に入れながら、調整ビスを締めてください。
※柱と縦枠下地のクリアランスは2mmが標準設定です。

 <p>調整ビス 開き側</p>	 <p>調整ビス 1mm</p>		
調整ビスにより枠を固定	縦枠下地の見込寸法は壁厚+1mmずつのデリ	調整ビス頭の飛び出し ×	○
 <p>クリアランス スペーサー 調整ビス</p>	 <p>2mm</p>		 <p>パッキン材</p>
クリアランス スペーサーを挟む	2 mmのクリアランスを保ち調整ビスで取付	縦枠下地の下部裏側に 2 mm厚パッキン材取付済	

【注意事項】

縦枠下地を含む全ての下地枠を取付け後、縦枠下地の調整と固定をする必要があります。
後頁16ページの「縦枠下地の調整」と「縦枠下地の固定」をご確認ください。

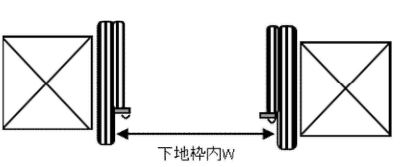

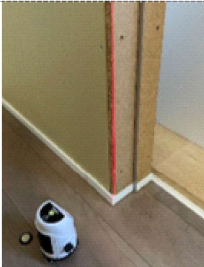
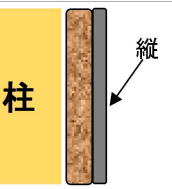
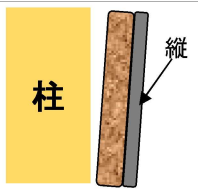
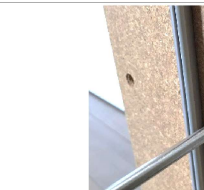


- ボ** ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材がついてますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
イ ※クリアランススペーサーが抜けな場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
ン ※躯体がスタッドの場合は、調整ビスが効かないため、縦枠下地とスタッドの間に必ず木下地(15mm以上)を入れてください。
ト ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が効かなくなりますので、その際は別の所で再度、固定してください。

縦枠下地の調整

開口定規で下地枠内W寸法を確認してください。

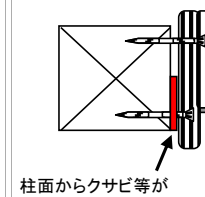
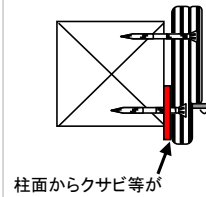
レーザーを使い、枠の建付けを確認してください。

調整が必要な時は、手動ドライバーを使用し調整ビスで縦枠下地の出し入れを行ってください。

 <p>下地枠内W</p>		
下地枠内に開口定規をあて開口を確認	下地枠内W	
	 <p>縦 柱</p>	 <p>縦 柱</p>
		 <p>枠 柱</p>
手動ドライバーで枠の建付調整	枠・柱の横断面	

縦枠下地の固定

取付・調整後、縦枠下地と柱の間にクサビ、又はパッキン（現場手配品）を接着剤併用（表裏塗布）にて差込み、縦枠下地が動かないようガッチリ固定してください。



クサビ又はパッキンに接着剤を塗布し縦枠下地と柱をガッチリ固定（クロス・塗り壁のヒビ割れ防止策）

×

○

ポイント

※ウォールスルーが並列する場合など、取合により調整ビスが貫通してしまう恐れがある場合は、別途ビス（現場手配品）で取付けてください。
 ※クサビ・パッキンの差込は、ビスとビスの間にに入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
 ※クサビ・パッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取付ができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。

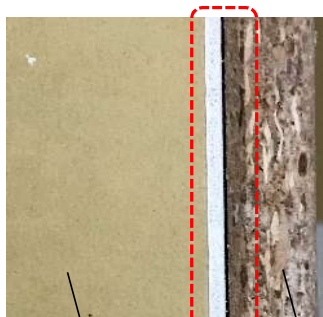
□石膏ボード・シンプル巾木の取付

石膏ボードの取付け時の注意点

枠に突き付ける石膏ボードは面をとり、枠との間に隙間が出ないように石膏ボードを取付けてください。

【注意事項】

仕上がりに影響がでる恐れがありますので必ず守ってください。



石膏ボード

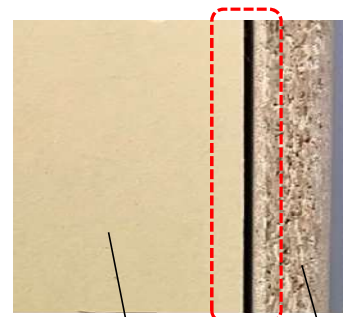
下地枠

枠と石膏ボードの
隙間無し

○

石膏ボードの
面取有り

○



石膏ボード

下地枠

枠と石膏ボードの
隙間有り

×

石膏ボードの
面取無し

×

シンプル巾木コーナー役物・取付け時の注意点

枠の取付・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤で縦枠下地の下部の切欠き部分にはめ込むように取付けてください。

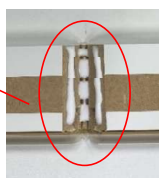
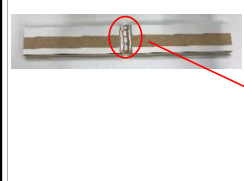


接着剤全面塗布
（推奨：酢ビ系）

【クロス貼り仕上の場合】
切欠寸法：7×30

【塗り壁仕上の場合】
切欠寸法：4×30

下地の欠き込み部分にはめ込む様に取付



【注意事項】巾木コーナー役物のVカット部も接着剤を塗布してください。※塗布しないと割れやすくなります。

ポイント

※出荷時には、シンプル巾木の切欠き加工がされています。
 高さ30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場で高さ方向の切り欠きを行ってください。
 ※厚さ7mmを超える巾木（現場手配品）には対応していません。

2 パテ、クロス

□ 下地枠・クロス施工時の注意点

縦枠【ヒンジ用下穴保護について】

注意！

吊元枠には枠取付用の下穴とは別に、ヒンジを取付ける為の下穴が6か所あります。

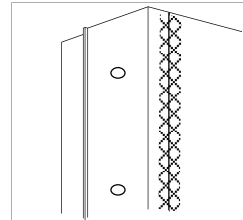
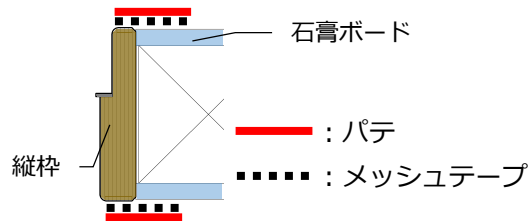
下穴はパテやクロスで埋めないで下さい。

ヒンジを取付ける直前まで竹串などを指し混んで下穴を保護して下さい。

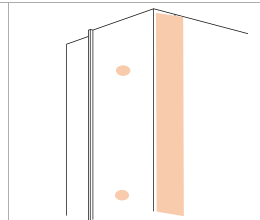


縦枠【袖壁納まりの場合】

- ① 縦枠と石膏ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理を行ってください。

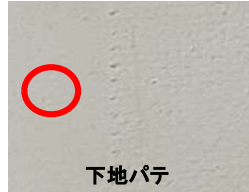


ジョイント部をまたいでメッシュテープを貼る



ビス穴、メッシュテープ部、及び縦枠の木口面全体にパテを塗る(下塗り、上塗り)

<パテ塗り厚の目安>



下地パテ



上塗りパテ

下地パテを塗布した時点でメッシュテープの繊維が隠れ、上塗りパテで完全に隠れる状態が適量です。



下地パテ



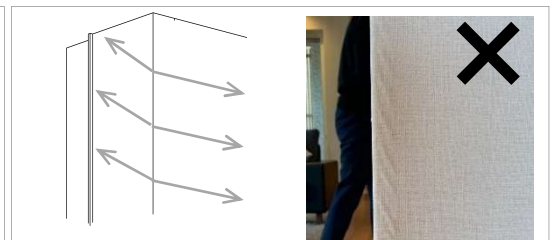
上塗りパテ

メッシュテープの繊維が浮き出る状態はパテの量が不足しています。

- ② 下地処理が完了した後でクロスを貼ってください。



枠に巻き込む際、クロスは上下左右余裕をもったサイズでまっすぐ貼る



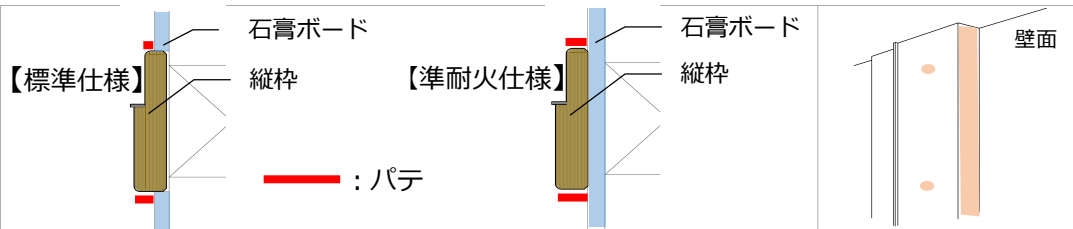
枠に巻き込む際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼るとクロスよれの原因となります

- ボ
イ
ン
ト
- ※コンシールド仕様の吊元枠にはヒンジ取付用下穴が開いています。パテ処理しないで下さい。
 - ※メッシュテープ貼り→パテ下塗り→パテ上塗りを推奨します。
 - ※縦枠下地の木口面全体にパテを塗ってください。

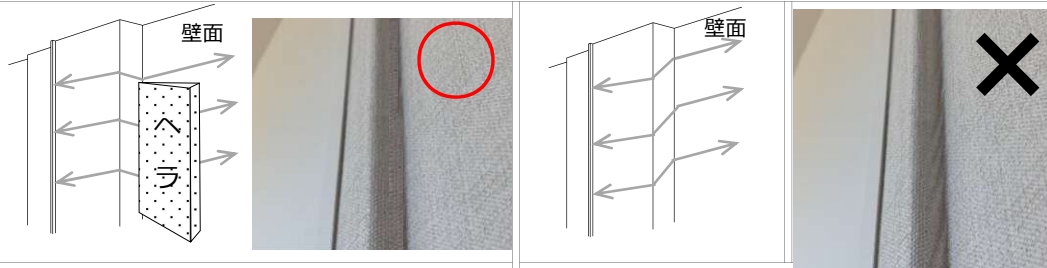
縦枠【入隅壁納まりの場合】

- ① 縦枠の入隅部は貼りづらく、クロスを貼る際にクロス面積が大きい壁面のクロスに引っ張られやすくなりますので注意が必要です。

縦枠の木口面にパテ等を塗り、クロスを貼る際は縦枠の木口面をヘラ等であてながら壁面のクロスに引っ張られないように、まっすぐ貼ってください。



ビス穴、縦枠の木口面全体にパテを塗る
(木口面の見附寸法が小さく、パテが塗りにくい箇所はコークボンドを塗る)
※但し、クロス厚が薄い場合はコークボンドで不陸が出ないようにご注意ください



枠の入隅部に貼る際、クロスは上下左右余裕をもったサイズで木口にヘラ等をあてながら壁面のクロスに引っ張られないようにまっすぐ貼る

枠の入隅部に貼る際、クロスを過度な力で斜めに引っ張りながら貼ると壁面のクロスに引っ張られ、クロスよれの原因となります

ポイント

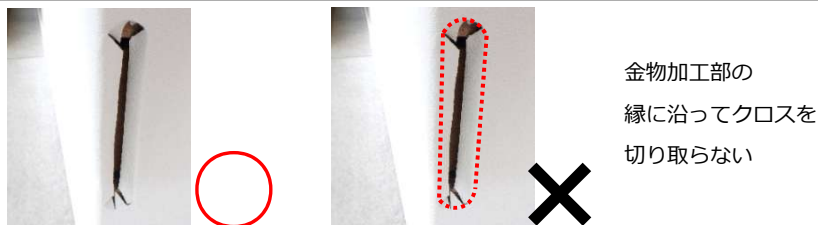
金物加工部分

- ① 金物加工部分をまたいでクロスを貼り、切り込みを入れ、クロス巻き込んで金物を取付けてください。



金物加工部分をまたいでクロスを貼る

金物加工部分のクロスに切り込みを入れ、クロス巻き込んで金物を取付ける



金物加工部の縁に沿ってクロスを切り取らない

金物加工部分のクロスは縁に沿って切り取らず、加工部に巻き込んで金物を取付ける

ポイント

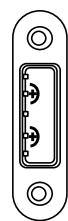
※金物加工部分のクロスは縁に沿って切り取らず、加工部に巻き込んで金物を取付けると仕上がりがきれいです。

3 ラッチ受け

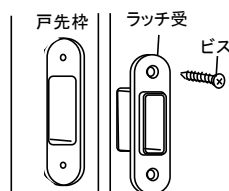
枠側ラッチ受け金物の取付

クロスが乾いてからラッチ受け金物の加工部分にカッターで切り込みを入れます。ラッチ受け金物を枠に取付る際、クロスを巻込んでください。

ラッチ受け取付け向



突起の有る方が
扉の開く方向



4 コンシールドストッパー

□コンシールドストッパー(オプション)

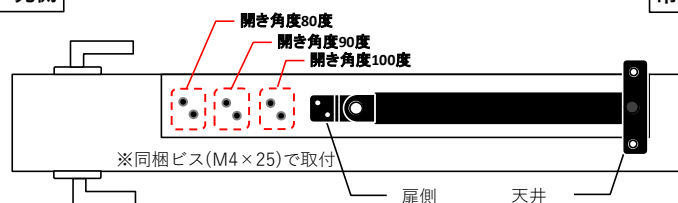
扉に金物取付

①レバーストッパーの扉側を扉上部の戸先側に既存の下穴に合わせて取付る

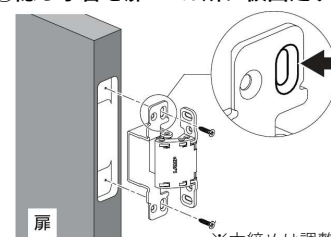
注)開き角度に合わせて取付位置を変えてください。

戸先側

吊元側



②隠し丁番を扉の2カ所に仮固定する

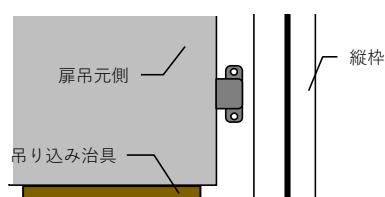


※本締めは調整後に行います
※本締めは調整後に行います

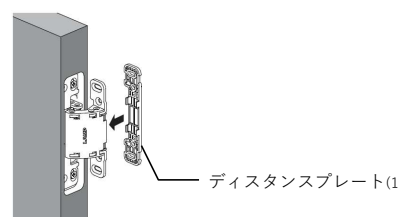
5 扉

枠に隠し丁番取付

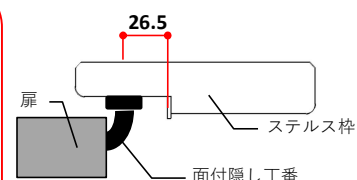
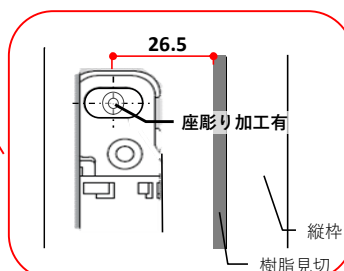
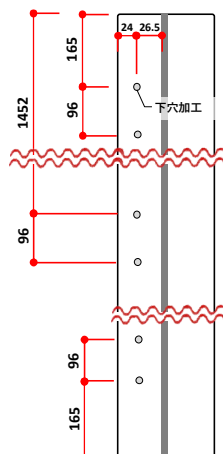
①吊り込み治具に扉を乗せる



②ディスタンスプレートを取付る



③隠し丁番を縦枠に寄せて取付位置の確認

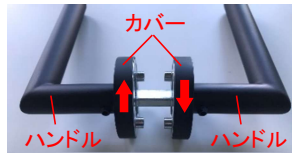


注意！ 枠側の下地穴加工はクロス施工時にパテ埋めしないで下さい。正しい位置に扉が吊り込めなくなります。

6 ハンドル

ハンドルセットの分解

組立前にハンドルセットを分解します。
カバーを反時計回しに回転させてハンドルと座を分解し、芯棒から抜き取ります。



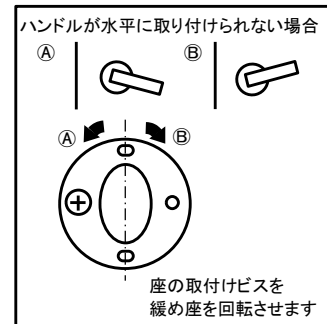
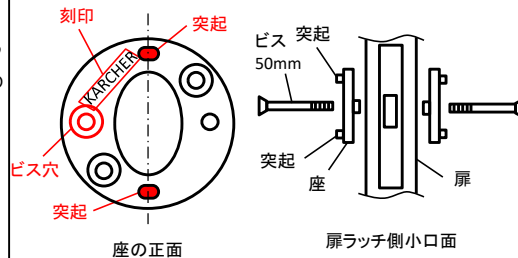
ハンドルの取付

【座の取付】

座は“KARCHER”の刻印が有る方を表にし、突起が扉に対し垂直に並ぶように取付ます。座で扉を挟み込み付属のビス(50mm)で両側から取付ます。

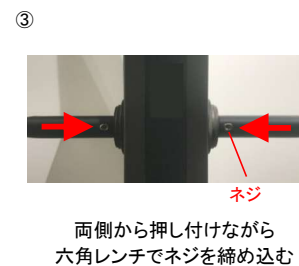
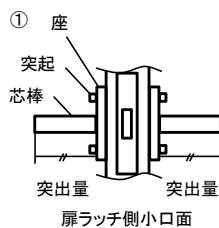
【注意】

ビスの締込過ぎに注意してください。
表面材が破損する恐れがあります。



【ハンドルの取付】

①扉に芯棒を差し込み、芯棒を押さえながらハンドルを取付けます。
②座の突起にハンドルの穴を合わせて押し込み、六角レンチでネジを締め込みます。
③逆のハンドルを組付け両側から押し付けながら固定し、六角レンチでネジを締め込みます。



【注意】

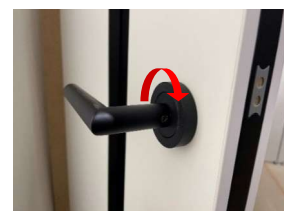
- ・芯棒の突出量を均等にしてください。
- ・座とハンドルは隙間の無い様に取り付けて下さい。
- ・ハンドルには回転方向が決まっています。回らない場合は、扉の裏側に取付けてください。

【カバーの取付】

ハンドルの先からカバーを通し、座のネジに合わせて取付けます。反対側も同様です。

【注意】

ハンドルに傷を付けない様にしてください。

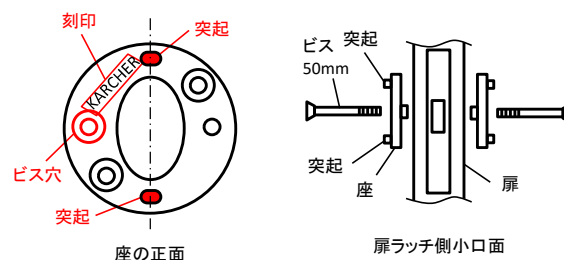


【錠の取付け】＜オプション＞

座は“KARCHER”の刻印が有る方を表にし、突起が扉に対し垂直に並ぶように取付ます。座で扉を挟み込み付属のビス(50mm)で両側から取付ます。カバーを座のネジに合わせて取付けます。反対側も同様です。

【注意】

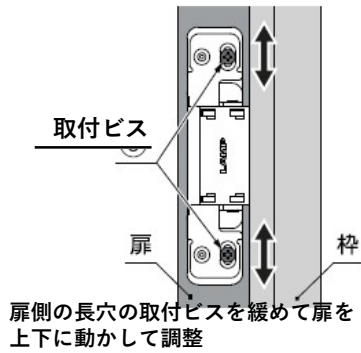
ビスの締込過ぎに注意してください。
表面材が破損する恐れがあります。



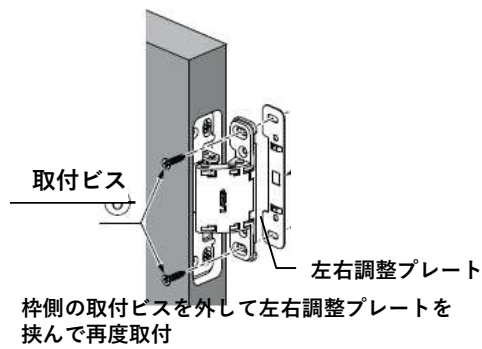
7 調整、仕上げ

調整

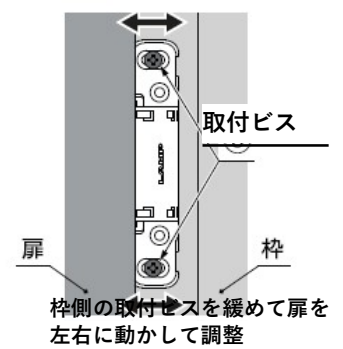
上下調整(±2mm)



左右調整(+1mm)

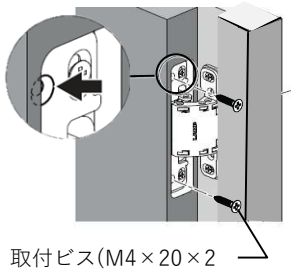


前後調整(±3mm)

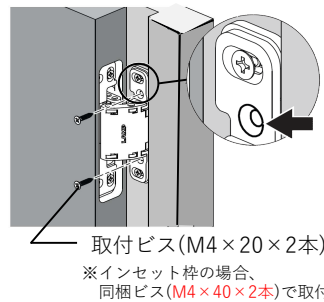


隠し丁番の固定

扉側に同梱の取付ビスで固定

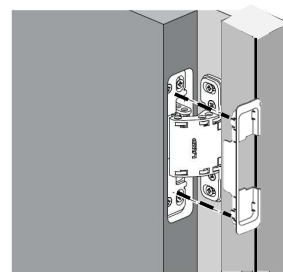


枠側に同梱の取付ビスで固定

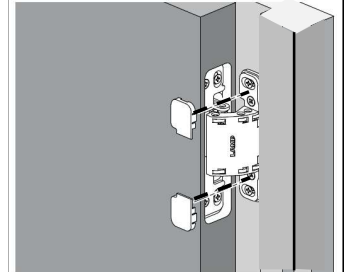


カバーの取付

扉側

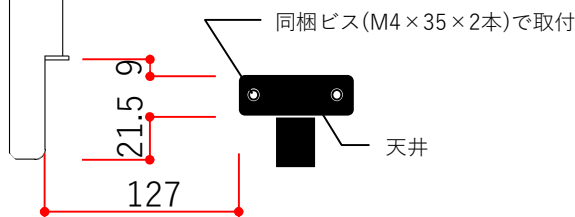


枠側



コンシールドストッパー 天井面取付

下穴を空けてから同梱ビス(M4×35)で取付
※吊元側に取り付け



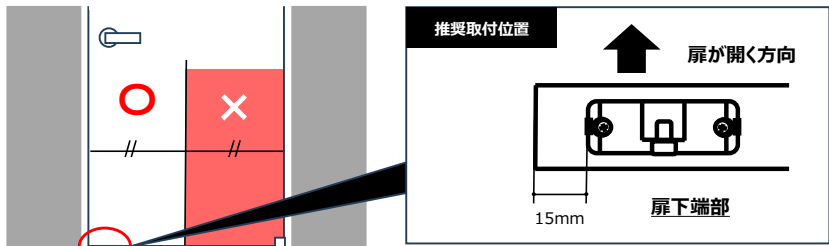
□オプション

別売ストッパー取付時の注意点

＜ボトムストッパー＞

・扉を吊り込む前に扉側金物を扉側に取付けてください。

・扉の中央より吊元側には取付ないでください。ボトムストッパー及びヒンジの破損や脱落の恐れがあります。



注意！

- ・床に浪打ち、凹凸の無い水平な面に取付けてください。
- ・クッションフロアや、カーペットには取付られません。

＜床付けマグネットストッパー＞

扉の中央より吊元側には取付ないでください。床付けマグネットストッパー、及びヒンジの破損や脱落の恐れがあります。

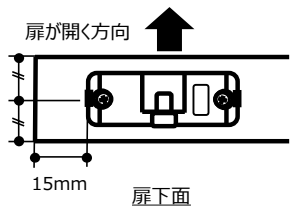
取付けは同梱の取付手順書を確認ください。



ボトムストッパー取付位置について

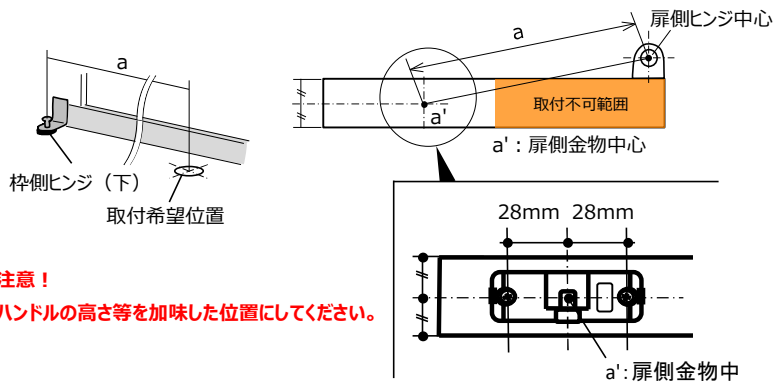
＜扉側金物の取付位置＞

- 扉下面に扉側金物を取付けます。
- 戸先側から15mm離れた位置が推奨位置となります。
- 扉厚み方向の中心に取付けます。



＜任意位置＞

- 取付希望の位置と枠側ヒンジ中心の距離を計測（a）します。
- aの寸法を扉下端に移します。扉側ヒンジ中心から、扉厚み中心線に（a'）を付けます。
- a'を中心に左右28mmの所に印を付けます。
- 扉下面に扉側金物を取付けます。



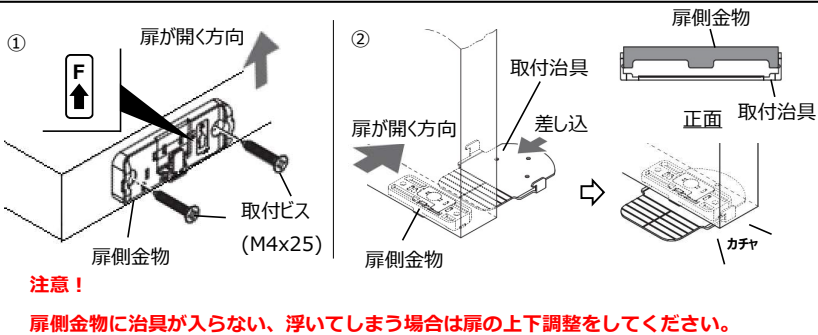
注意！

ハンドルの高さ等を加味した位置にしてください。

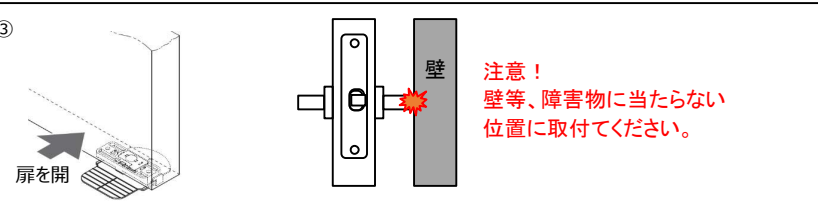
ボトムストッパーの取付

① 扉の吊り込み前に扉側金物を取付ます。“→F”マークを扉が開く方向へ合わせ下穴を開け、同梱ビスで取付けます。

② 扉を吊り込み、図のように扉側金物に取付治具を扉の下から差し込みます。

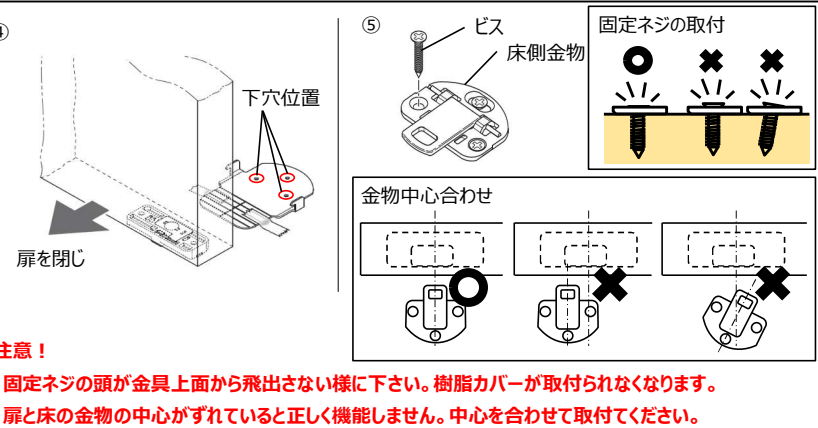


③ 取付治具を扉側金物に引っ掛け、そのまま扉を止めたい位置まで開きます。



④ 取付治具の位置がずれないようにマスキングテープで固定し手でしっかり押さえ、扉を引きます。取付治具の3か所の丸穴位置に印を付け下穴を開けます。

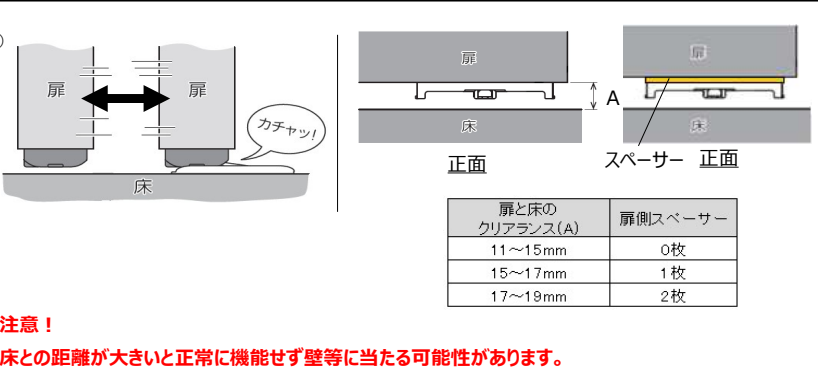
⑤ 治具を外し下穴に床側金物を合わせて、同梱ビス(M3x16)で取付けます。



⑥ 取付が完了したら扉を2～3回開閉し、扉側金具と床側金物のキャッチ機能が正常に作動するか確認します。

右表で扉と床のクリアランス(A)を確認し、必要に応じて、扉側スペーサー(2mm/枚)を取付けてください。

標準は、A: 11～15mmとなります。



シリンダー錠の取付

取付けにはシリンダー錠の箱に同梱されている取付説明書を参考に取付けてください。